

留学先国名 : アメリカ

留学先学校名 : アメリカン大学

留学期間 : 平成 27 年 8 月 20 日 ~ 平成 28 年 5 月 10 日

今回の留学を通して得たことは大きく分けて以下の二つである。

一つ目は、異文化コミュニケーション力である。ラオスにてインターンを行った際、異なる文化的背景を持つ人々とのコミュニケーションに苦勞した。そのため、異文化理解は留学の目的の一つであった。今回の留学期間では、実際に肌で異文化と触れ合うだけでなく、学問的に異文化理解に努めた。アジア人ならではの共存主義的観点を維持しつつ、欧米人特有の個人主義的観点の取得に力を注いだ。はじめは欧米人的な考え方を理解することに非常に苦勞したが、友人やルームメイトとのコミュニケーションを通し、自分の価値観に囚われず、多種多様な考え方を受け入れることができるようになった。実際に、留学期間中に所属していた団体にて開催した「東南アジア文化イベント」では、それぞれ価値観や考え方が異なる人々の間に立ち、文化的衝突を抑えることができた。

二つ目は、どのような状況下でも粘り強く戦うことができるバイタリティである。私はルームメイトとのコミュニケーションに非常に悩まされた。初めの頃は自分の考えがうまく伝わらず、部屋にいることが不快で図書館などで睡眠を取る日もあった。

しかし、徐々にルームメイトと真正面からぶつかることができるようになり、毎晩、睡眠時間を削って話し合いなどを行った。その結果、相手にも自分の考えが理解してもらえるようになった。

また、グループワークにおいても悩まされ、粘り強さを磨くことになった。私が受講していたクラスで、論文を読み4人グループでまとめ40分間プレゼンテーションするという課題があった。しかし、私がグループのメンバーに連絡しても誰からも連絡が返って来ず、最終的には一人ですべてを行うことになった。留学開始間もない時期であったことから英語に関しても多くの問題を持っていたが、一人で発表できることをポジティブに捉え、一人で発表した。これらの経験で得た粘り強さ、バイタリティは自分の財産である。

私はこの経験を通して得た能力を以下の二点で活かしたい。

一つは、異文化間のコミュニケーションを円滑に進めるサポートをしたい。現在グローバル化が進む中、異文化を持つ人々と関わる機会は確実に増えてくる。その中で、異文化コミュニケーションを磨いてきた私は、異文化の間に立ち、文化間の衝突を抑え、コミュニケーションを円滑に進めることができると考える。

二つ目は、留学先で得た英語力を使い、将来は国際的に活躍したいと考えている。留学先ではインターンシップなども経験し、実践的な語学力を学んできた。将来はこの語学力を活かし、国際的な場で活躍したいと考える。

私の経験を通し、これから留学を視野に入れている学生へのアドバイスとして五つ述べておきたい。

一つは留学する理由の明確化に関してである。私の留学先では、留学の理由が明確でない子がたくさんいた。そのため、なんとなく留学生生活を過ごし、気づけば何もせず留学生生活が終了したという方もたくさんい

た。せっかくの留学期間中にそれではお金はもちろん、時間も非常に勿体ないと考える。そのため、留学前に留学に行く意味をもう一度しっかり考えて頂きたい。

二つ目は、日本で学べることとの比較である。なぜか、留学をすれば就活などでもプラスになるし、留学はしなければいけない、と考える学生が多くいるが、実は日本でもできることはたくさんあり、多くの点では日本で学ぶことの方が深く、価値がある。留学を開始してからそれに気づいたのでは遅く、残りの留学期間、後悔しながら生活することになる。私自身、留学期間中に、日本であればもっとできたらと思うことがたくさんあったが、留学前にしっかりと比較をして準備をしていたため、後悔をすることはなかった。そのためこれから留学を目指す方は、しっかりと日本で学べることとの比較はしておいてほしい。

三つ目は、すべてが楽しい経験ではないということ。留学に楽しさを求めるのはもちろんよいことである。私自身も勉強ばかりしていただけてだけでなく、思いっきりアメリカ文化に浸り、楽しい経験をした。しかし、個人的には“留学先では苦勞するんだ”という気持ちを持っていて欲しい。そうすることで、苦勞することに対する心の準備になり、留学開始前と開始後のギャップを少しでも埋めることができるからである。間違いなく苦勞することになるとは思いますが、それだけ得られることも多いので、苦勞しながら頑張りたい。

四つ目は当たり前ではあるが、言語学習を留学前にとことんやっていたら欲しい。私のプログラムは言語ありきで自分の専門分野を勉強するものだった。そのため英語力には少し自信があったが、初めは全くついていけないことができなかった。そのため、これから留学を考える方には、自分の今やっている10倍、語学学習に力を注いでほしい。語学力のありとなしでは留学で得られるものが大きく変わってしまう。ただの語学留学で終わらせないようにしっかりと準備してほしい。

最後は、帰国後の逆カルチャーショックについてである。逆カルチャーショックとは、留学経験者が日本帰国後に日本文化をうまく受け入れられずに生じる元の文化に対するカルチャーショックであると私は考えている。私のように長期間留学しており、現地の文化を好きになった方はきっとこの症状に直面することになると思う。私自身、現在もこの現象は完璧に消えたわけではなく苦勞しているため、ここで完璧な解決策などは述べることはできていない。しかし、その現象について知っているのと知らないのでは帰国後の感じ方が大きく異なるので、今から留学を目指している方々には是非その症状の存在を知っていて欲しい。心の準備ができていない場合とできていない場合では悩まされる期間も重度も変わってくると思う。

帰国後の話になってしまいますが、私が帰国後の喪失感や逆カルチャーショックを癒すために行っていることについて書いておきます。

私は使用している手帳にアメリカの思い出セクションを作っています。日本にいなながらもそこが私とアメリカをつなぐ、小さいながらも非常に重要な架け橋となっています。辛いことが起きてもそこを見ると元気が湧いてきます。もしよかったらみなさんもやってみてください。

最後に今回の貴重な経験を支えてくださった、“おおさかグローバル奨学金”に感謝の言葉を述べさせていただきます。

家計の事情で長期留学が難しい状況でありましたが、“おおさかグローバル奨学金”に支援していただいた結果、人生で最大の経験を得ることができました。

本当にありがとうございました。